

訪問審査の プレゼンテーションのコツ

～重要項目の事前対策, 当日の受審対策

前回(本誌Vol.17, No.11)は, 師長や副師長が各職員の意識付けをするために, どのように活動するべきか, 病院機能評価の受審を改善活動のきっかけとするための方法について解説しました。結局のところは, PDCAサイクルをどのように回すかということになりますが, 病院機能評価の受審準備で考えるならば, 「Plan=現状診断, Do=病棟活動や委員会活動, Check=実践によるカルテ準備」となるかもしれません。そして, 本審査の受審以降に, 「Action=審査結果」への対策として, 受審後のさらなる改善活動へ取り組むことになります。

今回は, 審査の当日を迎えるに当たって, どのように審査の準備をしておくか, また審査当日の体制をどのようにするかについて解説します。審査に向けて準備するといっても, 何か小細工をするような話ではなく, 努力した結果を正しく評価してもらうことが目的です。また, 審査は限られた時間で実施されるため, 準備が不十分だと, せっかくの取り組みを満足に伝えることができません。日本医療機能評価機構は, 特別な準備はしなくても良いとアナウンスしていますが, やはり当日は外部の人へのプレゼンテーションの場となるため, 適切な評価をしてもらえるような準備をしておくことが大切です。

評価「C」となりやすい項目を知る

最初に, 評価「C」にはどのような内容が多いのか, どのような状況であると指摘となるのか, 解決すべき内容を知っておくことが大切です。しかし, 評価項目や解説集に記載されているすべてを完璧に仕上げることができるなら言うことはありませんが, なかなかそう簡単にはいかないことが多いのではないのでしょうか。また, 自己評価については前回触れましたが, この自己評価における「C」の基準がずれていないかを確認しておくことが, 初期段階でも重要な作業となります。

公式資料を確認する

日本医療機能評価機構のホームページでは, 病院機能評価の各評価項目が, ほかの受審病院においてどのような指摘を受けて「C」となっているかを, 『病院機能評価データブック』として掲載しており, 年度ごとにま

支援経験の豊富な現場密着型コンサルタントが教える

病院機能評価 3rd G Ver.1.1の
受審準備・改善対策とスタッフへの意識付け

小金丸 実

株式会社ユアーズブレイン
医療経営コンサルタント部 課長



外資系製薬メーカーを経て, 2009年に株式会社ユアーズブレインに入社し, 業務改善支援, 病院機能評価取得支援の研修会講師などを担当している。病院機能評価Ver.1.0以降の支援では, 評価項目への適合性の確認や改善推進の支援, 模擬審査を提供する。大学病院から中核病院, 一般急性期, 慢性期, 精神科などさまざまな病院での支援実績がある。